

科目番号	52108	分類	助産診断技術学	履修者	高度実践助産コース	学年	1	
科目名	助産臨床推論 (Midwifery Clinical Reasoning)					1		
						配当セスター 後期		
担当者	○関屋 伸子、平出 美栄子、 宮崎 文子、高橋 純	区分	助産師プログラム	必修	単位	1	時間数	15
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連		
<p>【概要】 本科目では、助産師としての自律的な判断スキルをもち、適切な時期に、適切な判断ができるための臨床推論に関する知識・技術等を習得することを目的とする。 講義では臨床推論の基本的な概念を理解し、助産における面接（問診）やフィジカルアセスメントのシミュレーションを行い、基本的な助産技術を習得する。 また、仮想の事例を用いて、医師の臨床診断における診断の概念や疾病の定義、診断仮説（鑑別診断）の設定および確定診断への絞り込みのプロセスを学ぶ。 講義では、教員学生間や学生間の相互的な討議を通して、分娩経過のリスク判断とガイドラインを遵守した対応を理解する。講義を通じて社会に求められる周産期医療連携の在り方に対する見識を深めるとともに、臨床推論の基本的な能力を修得し、より自律した助産師の育成を図る。</p> <p>【目標】 1. 臨床推論に関連する基本的な概念および助産における臨床推論の意義を理解する。 2. 臨床推論に用いる基本的な診察技術（医療面接、身体診察、検査など）を理解する。 3. 事前確率からルールイン・ルールアウトすべき診察（検査含む）を理解する。 4. 対象の主訴から疾患の頻度と緊急性を意識した鑑別診断のリストを示し、それらの重症度や緊急性から暫定的に確定診断を絞り込む臨床診断の思考プロセスを理解する。 5. 正常な分娩経過が異常に移行するリスクを速やかに、かつ、適切に判断する重要性を理解する。 6. 助産診断における臨床推論の活用について考察する。</p>						○	1. 自律して自然分娩の支援ができる能力	
						○	2. 院内・院外助産システムを担うことができる能力	
						○	3. 女性の生涯にわたる健康を支援できる能力	
						○	4. 周産期の救急時に対応できる能力	
						○	5. 他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力	
						○	6. 研究・開発能力	
						○	7. 倫理的意思決定能力	
授 業 計 画								
回	内 容						担当教員	
1回	ガイダンス、助産過程と臨床推論の相違、臨床推論に用いる基本的な診察技術						関屋	
2回	助産における臨床推論の意義、臨床推論に関連する基本的な概念						宮崎	
3回	助産師が用いる医療面接・身体診察の技術—臨床推論への応用—						平出	
4回	臨床推論の思考プロセス（情報収集、鑑別診断、仮説の検証、確定診断） ※レポート課題1（模擬事例）提示						関屋	
5回	臨床推論事例展開1（妊娠初期によくある主訴）、診断の定義						高橋	
6回	臨床推論事例展開2（妊娠中期によくある主訴）						高橋	
7回	臨床推論事例展開3（妊娠末期によくある主訴）						高橋	
8回	臨床推論事例展開4（分娩期、産褥早期によくある主訴）						高橋	
まとめ	筆記試験、レポート課題2（助産師の臨床推論能力の修得における課題と対応策）						関屋	
事前・事後学習	事前学習：各回の必携図書で該当する部分を読んでくる。事前課題レポートを課す。 事後学習：単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に取り組むこと。							
評価の方法	授業への参加及び学習状況(10%)、レポート課題(40%)、筆記試験(50%)から総合的に評価する。 フィードバックは適宜行う。							
参考図書・資料等	◎野口善令/福原俊一:誰も教えてくれなかった診断学 患者の言葉から診断仮説をどう作るか 医学書院(2008.4) ・石松伸一:実践につよくなる 看護の臨床推論 学研メディカル秀潤社(2014.3) ・大西弘高 著: The 臨床推論 研修医よ、診断のプロをめざそう! 南山堂(2012.8) ◎は授業の必携図書ですので、購入していただきます。							
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。							